

和同開珎は和同開珍ではなく和同開寶^{ほう}

会員 ID:10507 堀口 啓一

1. 今は和同開珎をワドウカイチンと訓^よ(1)むらしい

これは古銭である和同開珎の名称について、正しい訓みを見出そうとする一論である。この銘字は以前は和同開寶^{ほう}と訓まれていた時期もあったと思うが、今は和同開珍^{ちん}と訓むのが定説となっているようだ。

私は四十年程前から和同開寶が正しいと考えて来たので、昨今の状況には違和感を覚えるのであるが、本当に和同開珍と訓むのが正しいのであろうか？

この貨幣の銘字を他の貨幣の銘字と比較しつつ、正しい訓みを明らかにしていきたいと思う。

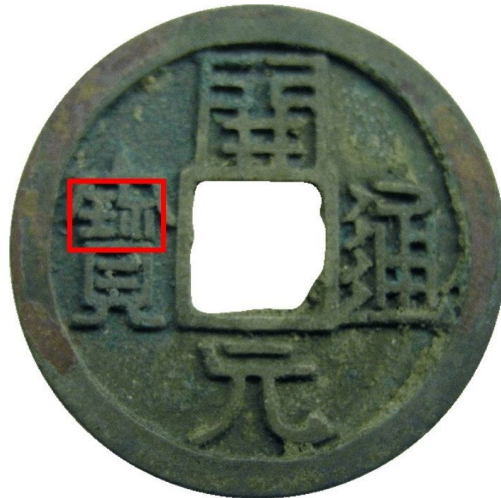
2. 和同開珎は和同開寶の省画

和同開珎は唐王朝の貨幣である開元通宝(寶)⁽²⁾を基に鑄造されたものと考えられている。和同開珎の和同は佳字を選定されたのかも知れないが、開珎の開字は開元通宝の開^{なら}に倣ったであろう事、多くの人に察しが付くと思う。ならば珎字はどこから持って来たのであろうか？

この基本的かつ単純極まる疑問に、「和同開珎は和同開珍である」と主張する論者は回答に窮するのでは無いか。

答えは次の画像1の通りである。

画像 1 開元通寶



画像の赤枠囲み は私が書き入れたものであるが、加工前の画像として、以下で公開されている public domain の画像を利用している

[KaiyuanTongbao - 開元通宝\(開通元寶\) - Wikipedia 開元通寶\(https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/0/00/KaiyuanTongbao.png\)](https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/0/00/KaiyuanTongbao.png)

この画像を見れば**寶**字の中に**珎**字が収められている事、誰の目にも明瞭であろう。漢字は画数が多く筆記が面倒な言語なので、場合によっては已むを得ず省画が行われてしまう事もある。例えば古代の銅鏡の銘文では、次のように省画している箇所がある。

王氏作**竟**甚大明 **同**出徐州刻鏤成⁽³⁾

陳氏作鏡用青**同** 上有仙人不知老 君宜高官 保子宜孫 長壽⁽⁴⁾

吾作明**竟**甚大好 上有神守及龍虎 身有文章口街**巨**⁽⁵⁾

これ等の鏡は**鏡**を**竟**と省画し、**銅**を**同**と省画している。**巨**は**鉅**の省画らしい。他にも省画の漢字は幾つかあるが、例として表 2 のような漢字が存在している。これ等を考えれば、**寶**字が**珎**字に省画されて使用されると言うのはありそうな事に思える。

表 2 漢字の省画例

| | | | | | | | | | |
|-----|---|---|------|---|---|---|---|---|------------------|
| 省画前 | 與 | 獨 | 缺, 闕 | 藝 | 鹽 | 應 | 醫 | 聲 | 鐘 |
| 省画後 | 与 | 独 | 欠 | 芸 | 塩 | 応 | 医 | 声 | 缶 ⁽⁶⁾ |

和同開珎は皇朝十二銭の端緒として鑄造された銭貨であるが、和同開珎以降に鑄造された貨幣を見るに、どうも一定の法則が存在していたらしい事が読み取れる。

次の表 3 は開元通宝および皇朝十二銭の銭銘字と発行年を書き記したものであるが、これを見れば どう言う法則なのかが分かる。

表中では表示を見易くするため、寶字の背景色を他の銘字と区分しておく。

表3 皇朝十二錢(和同開珎を含む)および関連錢貨

| 発行順 | 錢銘字 | 発行年 |
|-----|----------------------|------------------------------|
| 1 | 開元通寶(寶) ⁷ | 唐朝 武徳4年(621年) |
| 2 | 和同開珎 | 元明 ⁽⁸⁾ 和銅元年(708年) |
| 3 | 万(萬)年通寶(寶) | 淳仁 天平宝字4年(760年) |
| 4 | 開基勝寶(寶) | 淳仁 天平宝字4年(760年) |
| 5 | 太平元寶(寶) | 淳仁 天平宝字4年(760年) |
| 6 | 神功(功)開寶(寶) | 称徳 天平神護元年(765年) |
| 7 | 隆平永寶(寶) | 桓武 延暦15年(796年) |
| 8 | 富(富)寿(壽)神寶(寶) | 嵯峨 弘仁9年(818年) |
| 9 | 承和昌寶(寶) | 仁明 承和2年(835年) |
| 10 | 長年大宝(寶) | 仁明 嘉祥元年(848年) |
| 11 | 饒益神寶(寶) | 清和 貞觀元年(859年) |
| 12 | 貞觀(觀)永寶(寶) | 清和 貞觀12年(870年) |
| 13 | 寛平大宝(寶) | 宇多 寛平2年(890年) |
| 14 | 延喜通寶(寶) | 醍醐 延喜7年(907年) |
| 15 | 乾元大宝(寶) | 村上 天徳2年(958年) |

この表を見れば 和同開珎 以外の錢貨は全て錢文の末尾に**寶(寶)**字 が添えられている事、誰にでも把握出来る。もう見事なまでの統一美とでも言うべきか、貨幣鑄造師の強い^{こだわ}拘りを感じ出来ると思う。ここまで述べればもう和同開珎が和同開珍であると言う主張が道理に合わない事は明白であると思うが、それでも和同開珎=和同開珍説を固持する者がいるのであれば聞いてみたい。

開元通寶から万年通寶・神功開寶・隆平永寶・富寿神寶・承和昌寶・長年大宝・饒益神寶・貞觀永寶・寛平大宝・延喜通寶・乾元大宝と続く貨幣の中で、何故唯一和同開珎のみ 和同開珍なのか？

この問いに対して納得するに足る回答を示せないのであれば、和同開珎=和同開珍説は間違いであると言う事になる。

3. 珎字は何故使われ、そして消えたのか

ここで、和同開珎以降の皇朝十二錢では寶字の省画である珎字を採用しなかったのかについて私の見解を書き記しておきたい。和同開珎の鑄錢者は寶字の省画として珎字を錢文に鑄上げたが、これを和同開珍と誤読する者が^{あらわ}現れたので以降は誤読の余地を生じさせぬために珎字ではなく寶字を錢文に鑄上げる事としたのではな

いかと考えている。

では何故珎字が使われたのか？

当時は まだ鑄造技術が こなれておらず、画数の多い字を錢貨に書き入れるのは難しかったのかも知れない。それで少しでも画数を減らそうとして、寶字 の代わりに珎字を使ったものと考えている。

4. 珎が寶の省画として使用されるのは基本的に和同開珎のみ

最後に記しておきたい。珎字は珍字の異体字で あり、基本的には珎=珍として使用されている。ただ、異体字と言う事のみ^{こたわ}に 拘^くってしまうと、大局観^{くら}を昏くして本質を見過ごしてしまう可能性が あり、木を見て森を見ずと言う事態を招きかねない。

珎字が寶字の省画として使用されるのは極めて稀な事であり、史料や文献で確認される事例は少ないと思われる。重要なのは、和同開珎の鑄錢者が寶字の代わりとして敢えて珎字を採用して、貨幣を鑄造したのであると言う事である。

(1) この書き方は一般的では無いかも知れないが、日本語に漢字を当てていると言う意味では「読」よりも「訓」の方が正しいのかも知れないので、本論攷では読ではなく訓と書くものとする。

(2) 開元通宝は実は開通元宝が正しいのかも知れない。本来は開通元宝で あったが開元と言う元号が使用されてからは開元と言う元号に^{ちな}因^りで発行された貨幣であると錯覚し、以後開元通宝が正しいと誤認されてしまった可能性もある。

(3) 王氏作竟群と言われる三角縁神獸鏡。

(4) 陳氏作竟群と言われる三角縁神獸鏡。

(5) 吾作竟群と言われる三角縁神獸鏡。

(6) 厳密に言えば罐字と缶字は字義が異なるので省画の関係では無いが、現代では省画として使用されている。

(7) 表中では錢銘字を当用漢字(現用漢字)で記載しているが、実際の銘字に旧字体もしくは俗字体が使用されている場合は、使われている字も記載する。

(8) 天皇の名称を省く。以降も同じ。